

報道関係各位

**術後のリキッドバイオプシーを繰り返すことで大腸がん再発高リスク群を捉え、
早期先制治療の臨床試験への参加につなげられることを確認**

2026 年 10 月 30 日

国立研究開発法人国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院(病院長:土井 俊彦)国際臨床腫瘍科長の吉野 孝之、医薬品開発推進部長の坂東 英明、及び外来研究員(国際研究推進室前室長)の中村 能章らを中心とした研究グループは、大規模研究プロジェクト「CIRCULATE-Japan」の観察研究「GALAXY」に登録された大腸がん患者さん 5,355 人のデータを解析し、術後の継続的な ctDNA 検査が、画像検査で再発が確認される前に再発高リスク群を捉え、早期先制治療の臨床試験への参加候補となる患者さんの特定に有用であることを明らかにしました。

解析の結果、術後早期に ctDNA 陽性だった患者さんの 51.8%が第 III 相臨床試験「ALTAIR」の参加条件を満たしました(図)。また、術後早期に ctDNA が陰性または不明だった患者さんでも、その後 ctDNA 陽性となる患者さんが認められました。さらに、ctDNA 陽性患者さんの 65.2%では、陽性判明後 3 か月以上再発を認めませんでした。これらの結果から、ctDNA 検査により再発高リスク群を早期に捉えられることが示されました。

本研究により、ctDNA 検査を活用して先制治療の対象となり得る患者さんを特定できる可能性が示されました。また、治療中や経過観察中に ctDNA が新たに陽性化する患者さんも認められ、継続的な ctDNA 検査の重要性が示されました。

本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業「SCRUM-Japan」の基盤を活用した血液循環腫瘍 DNA スクリーニングに基づく FGFR 遺伝子異常を有する難治性の治癒切除不能な進行・再発固形がんに対する TAS-120 のバスケット型医師主導治験」の支援により実施されました。

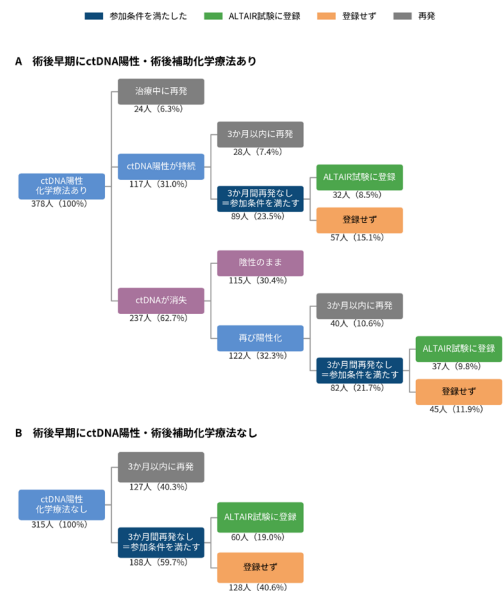


図:術後早期 ctDNA 陽性患者さんの経過

論文情報

Annals of Oncology(2026 年 10 月 7 日掲載)

Postoperative ctDNA dynamics and eligibility for Treat-on-Molecular Result (TOMR) ALTAIR trial in colorectal cancer: insights from CIRCULATE-Japan

DOI: [10.1016/j.annonc.2026.09.016](https://doi.org/10.1016/j.annonc.2026.09.016)

お問い合わせ先

研究について: 国立がん研究センター 東病院 SCRUM-Japan 事務局

電話番号:04-7133-1111(代表) E メール: scrum_office@east.ncc.go.jp

広報窓口: 国立がん研究センター 企画戦略局 広報企画室

電話番号:04-7133-1111(代表) E メール: ncc-admin@ncc.go.jp